

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2004-121566

(P2004-121566A)

(43) 公開日 平成16年4月22日(2004.4.22)

(51) Int.Cl.⁷

A47C 16/02

F I

A47C 16/02

テーマコード (参考)

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願2002-290565 (P2002-290565)
 (22) 出願日 平成14年10月3日 (2002. 10. 3)

(71) 出願人 302005282
 宮▲崎▼ キヨ子
 宮崎県宮崎市祇園1丁目97
 (72) 発明者 宮崎 キヨ子
 宮崎県宮崎市祇園1-97

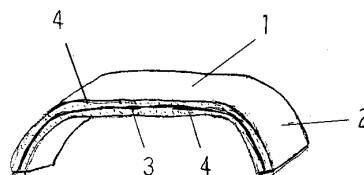
(54) 【発明の名称】 足載せ枕

(57) 【要約】

【課題】従来の足載せ枕は横向きで寝て使用するように配慮されたものではなかった。すなわち横向きに寝た場合は、足が重なるためこれら足載せマットではうまく安楽姿勢を保つことが出来ないという不具合があった。

【解決手段】足載せ枕を台形のアーチ型に形成したものであって、仰向けに寝たときは台座1に両足を載せ、横向きに寝たときは片方の足を台座1に、他方の足を台座下側の空間に入れるようにしたものである。すなわちアーチ型台座は、両足が載るくらいの幅、長さを有する台座1と台座から八字状に広がる脚部2からなり、該脚部高さを片足が余裕を持って入るほどの高さとしている。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

両足が載る位の幅、長さを有する台座（１）と台座から八字状に広がる脚部（２）からなり、該脚部（２）を片足が余裕を持って入るほどの高さとした台形アーチ型の足載せ枕。

【請求項 2】

前記足載せ枕の芯材（３）が、合成樹脂、木製、籐などの平板材であり、該芯材を弾性材で覆うようにした請求項 1 記載の足載せ枕。

【請求項 3】

前記脚部（２）を折畳めるようにした請求項 1 記載の足載せ枕。

【発明の詳細な説明】

10

【0001】

【発明の属する技術分野】

仰向きで両足を台座またはマットに載せることにより下肢のうっ血をなくし血液の循環を良くする足載せ枕に関する。

【0002】

【従来の技術】

従来かかる足載せ枕として色々なものが提案されている。例えば、特開 2000—245578 号公報および特開平 10—43004 号公報のものは、足載せ部分を波形の弾性マットで形成したものであり、特開平 11—76001 号公報および特開 2002—172043 号公報のものは、足載せ部分を略三角形に形成して足をひざ位置で折り曲げて載せるものである。そしていずれのものも就寝時または休息時に足の疲労を除去する目的で提案されたものである。

20

【0003】

【発明が解決しようとする課題】

然しながらいずれのものも仰向きに寝て両足または片足を載せるようにしたものであって横向きで寝て使用するものではなかった。すなわち横向きに寝た場合は、足が重なるためこれら足載せマットではうまく安楽姿勢を保つことが出来ないという不具合があった。

【0004】

【課題を解決するための手段】

本発明のものは足載せ枕を台形のアーチ型に形成したものであって、仰向けに寝たときは台座に両足を載せ、横向きに寝たときは片方の足を台座に、他方の足を台座下側の空間に入れるようにしたものである。すなわちアーチ型台座は、両足が載るくらいの幅、長さを有する台座と台座から八字状に広がる脚部からなり、該脚部高さを片足が余裕を持って入るほどの高さとしている。すなわち本実施例においては台座を横幅 60 cm、奥行 30 cm とし、脚部高さを 20 cm ほどとした。また芯材は、合成樹脂、木製、籐など軽くて強い平板材を使用し、そして全体をスポンジ、ウレタン、綿布などで弾力性がある素材で包みこむようにする。

30

【0005】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の実施の形態を図面に基づき説明する。図 1 は本発明足載せ枕の斜視図、図 2 は仰向きで寝た場合の使用状態説明図、図 3 は横向きで寝た場合の使用状態説明図、図 4 は台座を支える脚部を折畳み式とした足載せ枕の斜視図である。

40

【0006】

本発明の足載せ枕は、図 1 に示すように台形のアーチ型台座に形成したものであって、仰向けに寝たときは台座 1 に両足を載せ、横向きに寝たときは片方の足を台座 1 に、他方の足を台座下側の空間に入れるようにしたものである。すなわちアーチ型台座は、両足が載るくらいの幅、長さを有する台座 1 と台座から八字状に広がる脚部 2 とからなり、該脚部高さは片足が余裕を持って入るほどの高さとしている。

【0007】

すなわち本実施例においては台座 1 を横幅 60 cm、奥行 30 cm とし、脚部高さを 20

50

c mとした。また芯材 3 は、合成樹脂板、木板または籐、竹を折り込んだものなど軽くて強い平板材を使用し、そして芯材全体をスポンジ、ウレタン、綿布などの弾性材 4 で包みこむようにした。そして台座 1 と脚部 2 の交わる角部は滑らかに曲げて掛け布団が自然に沿うようにした。また日常の使用に際しては全体を図示しない着脱自在なカバーで覆って清潔に保つように配慮するようにした。

【 0 0 0 8 】

図 2 は仰向きで本発明の足載せ枕を使用した場合の説明図である。このように両足を台座 1 の上に置くと脚部を心臓より高く位置におくことになりうっ血した血液の心臓への戻りがよくなるので血液の循環が良くなり足のむくみ、だるさが取れて快適となる。

【 0 0 0 9 】

図 3 は横向きに寝て足載せ枕を使用する場合である。通常横向きに寝た場合は、体をくの字に曲げて寝るので膝同士が重なって下側の膝に負荷がかかるが、このように本発明足載せ枕を使用すると、一方の足を台座 1 に載せ、他方の足を台座下の空間内に差し込むことにより下側の足に負担がかからず楽な姿勢で足を伸ばして安楽姿勢を保ち休息、安眠することができる。

【 0 0 1 0 】

図 4 は第 2 の実施例で脚部 2 を折畳式のパイプとしたものである。このようにすれば場所を取らず、使用時のみパイプを立ててアーチ型にして使用すればよい。

【 0 0 1 1 】

【 発明の効果 】

本発明の足載せ枕を使用すれば、従来の足枕のように仰向けで足を高くして休むことも出来るし、横向きに寝て一方の足を台座上に、他方の足を台座下の空所に差し込んで下側の足に負担をかけることなく安楽姿勢を保って休息、安眠することが出来る。

【 図面の簡単な説明 】

【 図 1 】 本発明足載せ枕の斜視図である

【 図 2 】 仰向きで寝て使用する場合の説明図である。

【 図 3 】 横向きに寝て使用する場合の説明図である。

【 図 4 】 実施例 2 の足載せ枕の斜視図である。

【 符号の説明 】

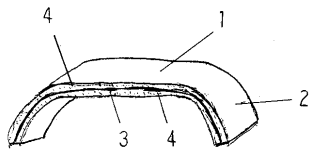
- 1 台座
- 2 脚部
- 3 芯材
- 4 弾性材

10

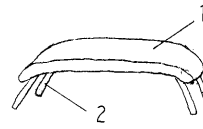
20

30

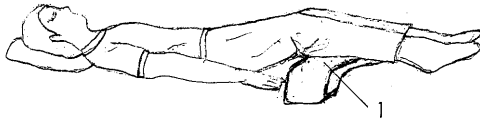
【図 1】



【図 4】



【図 2】



【図 3】

